

第二学年 国語科学習指導案

日時 平成二十九年 十月二十七日(金)
場所 岐阜市立陽南中学校(二年二組教室)
学級 二年二組(男子十七名・女子二十一名計三十八名)
授業者 北原 章大

一、単元名「君は最後の晩餐を知っているか」布施さんに挑戦」 二、単元及び教材について

説明的文章を読む際、生徒たちはまず文章の内容を正しく理解しようとする。そして、表現や構成、展開を基として筆者の主張について自分なりに考え、解釈する。その上で、読み取って得た知識やものの見方、考え方を日常生活や他の学習で活用したり、さらに広げたり深めたりしようと、新たな文章に相對していく。文章の内容を適切に理解した上で、筆者と議論するかのように自分の考えを深めていく。それこそ、読書の魅力の一つがあると言える。

本教材「君は最後の晩餐を知っているか」では、レオナルドダヴィンチの名画「最後の晩餐」を筆者は「カッコいい」と評している。また、その理由を説明するために、「解剖学」「遠近法」「明暗法」といった医学や建築に用いられる手法を取り上げ、それらを「絵画の科学」と称して論理的に説明している。このように説明的文章や絵画の批評において、あまり使われない表現を用いることや、絵画を緻密な視点で詳細に分析し、説明する点に、筆者の着眼点の鋭さが表れている文章である。

本単元では、筆者の「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方を適切に理解するとともに、共感できるかどうかで筆者と「議論」するという言語活動を設定した。生徒一人一人が筆者のものの見方、考え方に対する自分の考えを形成するためには、筆者のものの見方、考え方について適切に理解し、筆者の人物像や作品の背景といった視点からも教材を捉える必要がある。優れた美術評論家である筆者と、表現を根拠に「議論」することで、自分のものの見方、考え方を広げたり深めたりする力を身に付けさせていきたい。

三、生徒の実態

生徒は説明的文章の読解において、根拠を明確にして筆者の主張を読み取ろうとすることができる。しかし学力調査等の結果では、文章の中心的な部分と付加的な部分との役割の違いを考えて読んだり、自分の考えを形成したりする力に弱さが認められた。特に、考えの形成については、日々の授業の中でも「すごいと思った」「なるほどと思った」というように、簡単な感想を述べるに留まり、自分の体験や表現効果、語感といった様々な視点を根拠として、論理的に考えを形成するまでには至っていない。比較することや関連付けることを通して、自分の考えを筋道立てて形成する力を身に付けさせていきたい。

四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

中学校学習指導要領解説 「C読むこと」(中) 第二学年 より

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること

エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと

「生きてはたらく言語能力」の具体化 (生きてはたらく言語能力の具体化&言語活動例一覧表①)

イ 文章の解釈	6 読み手を納得させるための表現や展開の工夫を理解するために、文章中に示されている具体例や図表などの例示が果たしている役割と効果を捉えて読み取ることができる。
エ 自分の考えの形成	筆者のものの見方や考え方について、これまでに身に付けてきた知識や様々な体験と関連付けて、賛否を明らかにしたり、問題点を指摘するなど、具体的なものに基づいて自分の考えを書いたり話したりすることができる。

「生きてはたらく言語能力」を育成するために、前述の生徒の実態と、本単元の特性を生かし、「自分の知識や経験を筆者のものの見方、考え方とつなげて考えを形成する力」を生徒に身に付けさせたいと考えている。特に、考えを形成する場面では、「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方が自分にもあるかについて、具体的な場面を想定して考えさせていくこととした。

五、研究とのかかわり 読むことと部会研究テーマより

言語活動を通して、主体的・目的的に読む能力の育成
 構成・論理展開の意図や効果に着目し、説明的文章を正確に読み解くための指導の工夫

本単元の指導事項は、C読むこと「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」である。本文中から筆者のものの見方、考え方を適切に読み取り、それについて共感できるかできないか、賛成か反対か、自分との共通点や相違点などを視点に、考えを形成できるようにする。このように筆者と自分の考えを対比したり、置き換えたりすることによって、自分の問題として捉えることができ、主体的な学びを生み出すために必要な力であると考えた。

六、単元指導計画（全6時間）

【単元のねらい】

- 最後の晩餐を「かつこいい」と評した意図として、解剖学、遠近法、明暗法といった「絵画の科学」を用いて説明していることや、筆者の「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方について適切に読み取ることができる。
- 筆者のものの見方、考え方について、自分の知識や経験とつなげて考えを形成することができる。

【単元の評価規準】

- 筆者の考えとその根拠を捉えることで、筆者のものの見方、考え方について適切に読み取っている。
- 筆者の主張やものの見方、考え方について、自分の知識や経験とつなげて、考えを形成している。

時	ねらい（◎中心となる主発問）	評価規準・評価方法
1	「最後の晩餐」を「かつこいい」と評した筆者について知るとともに、思ったことや初めて分かったことなどを交流し、学習の見通しをもつことができる。 ◎単元の学習内容を確かめ、見通しをもとう。	「かつこいい」という言葉の持つ意味や、作品の特徴などを考え、筆者のものの見方、考え方についての感想を書いている。（発言・振り返り）
2	筆者が作品を「かつこいい」と評した意図について考えることで、「最後の晩餐」の魅力を誰に対しても分かりやすく伝えようとしていることを読み取ることができる。 ◎布施さんは、どうして「最後の晩餐」を「かつこいい」と評したのか読み取ろう。	筆者が「最後の晩餐」を「かつこいい」と評した意図を表現の意味や語感に着目して読み取っている。（発言・ノート・振り返り）
3	「かつこいい」の内容について考えることで、筆者が「解剖学」「遠近法」「明暗法」といった「絵画の科学」という手法を例に挙げて、魅力を要素に分け、細かくとらえ直して説明していることを読み取ることができる。 ◎布施さんは、どうやって「かつこいい」ことを説明しているのか読み取ろう。	筆者が「かつこいい」の中身を「解剖学」「遠近法」「明暗法」という「絵画の科学」を用いて、魅力を要素に分け、細かく捉え直して説明していることを読み取っている。（発言・ノート・振り返り）
4	展開の意図や「絵画の科学」を用いた説明の仕方から、筆者が「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方をしていることを読み取ることができる。 ◎布施さんはどんなものの見方、考え方をしているのか読み取ろう。	筆者が「物事を要素に分けて細かく捉え直す」「抽象的な捉えを具体的に説明する」等、「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方をしていることを読み取っている。（発言・ノート・振り返り）
5 本時	筆者の「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方について、自分の知識や経験とつなげて考えをもつことができる。 ◎布施さんの分析的なものの見方について、自分の考えをもとう。	筆者のものの見方、考え方について、自分の知識や経験とつなげて自分の考えを形成している。（発言・ノート・振り返り）
6	筆者のものの見方、考え方やそれに対する自分の考えをもとにして、「最後の晩餐」の魅力について語るることができる。 ◎自分のものの見方、考え方で「最後の晩餐」の魅力を説明してみよう。	筆者のものの見方、考え方を踏まえて、形成した自分の考えに即して、最後の晩餐を説明している。（発言・ノート・振り返り）

七、本時のねらい

筆者の「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方について、自分の知識や経験とつなげて考えをもつことができる。

八、本時の展開（5/6）

	学習活動	指導・援助
導入	<p>◇単元における本時の役割とねらいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none">・筆者が「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方をもっていることが分かった。・そんな筆者のものの見方、考え方について、どんな考えをもつかを、理由をつけて説明する「考えの形成」をする時間だ。 <p>◇課題を確認し、解決の見通しをもつ。</p> <p>布施さんの分析的なものの見方、考え方について、自分の考えをもとう。</p> <p>自分の経験や知識と関わらせると、具体的に説明することができそうだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・自分が同じように「物事を分析的に見る」というものの見方、考え方をしたことがあるか考えてみよう。 <p>◇課題について個人追究する。</p> <p>【考え方例①「共感できる」】 自分は布施さんにとっても共感ができる。例えば体育大会の学年競技では、少しでもタイムを早くするために、課題点をいくつも挙げて改善策を考えた。それは観点を挙げるという点で、分析的に見るということだ。そうやって考えることで、重点的に練習するところがよくわかった。だから、物事を分析的に見ることはとても有効だと考える。</p> <p>【考え方例②「共感できない」】 自分は布施さんのようなものの見方、考え方をしたことがない。例えば何か買物をするときには、欲しいと直感的に感じたものを買って、それをいちいち分析的に考えることはない。そうしていると迷ったり、時間がかかったりする。分析的に見ることは大切だとは思って、いつもそうしなければならぬというわけではないと考える。</p> <p>◇全体交流を通して、考えを広げ深める。</p> <ul style="list-style-type: none">・「欲しいと直感的に感じた」とあるが、そのものの要素を分析した結果欲しいと判断しているのだから、分析的と言えるのではないか。・今の意見は本当に分析的と言えるだろうか。布施さんの「分析的に見る」とはどういうことだったか確かめてみよう。 <p>◇全体交流を踏まえて、再度考えを深める。</p> <p>布施さんの分析的なものの見方、考え方はとても役に立つと思う。布施さんは「最後の晚餐」を分析的に見ることによって、分かりやすく説明することができていた。自分も委員会の活動を説明する時に、取り組み方や取り組むことのよさを分析的に考えれば、分かりやすく説明することができるのではないかと思った。</p>	<p>指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none">・筆者の「物事を分析的に見る」とは「物事を要素に分けて細かく捉え直す」「観点を挙げる」「様々な視点とつなげて考える」ことであることを確認し、自分の知識や経験とつなげて考えることを意識させる。・課題化の際には「理由をつける」ことを大切に。自分の知識や経験とつなげることを意識させ、日常生活など具体的な場面を想起できるようにする。・個人追究では、具体的な自分の知識や経験とつなげているかを確認し、分析的なものを見方、考え方の良い悪いや好き嫌いに終始しないように援助する。・自分の知識や経験とつなげることができない生徒には、「部活動では」「買い物をするときには」という具体的な場面を指定したチャートを示し、その時の自分のものの見方、考え方について想起させる。・再度本文の内容を確認し、筆者の分析的なものの見方、考え方を想起できるようにする。・終末に再度自分の考えをまとめる際には、仲間の考えを踏まえて、広がったり深まったりしたことを加えて形成するように促す。 <p>【評価規準】 筆者のものの見方、考え方について、自分の知識や経験を形成している。 (発言・ノート・振り返りシート)</p>
展開		
終末		